

2001年に北海道で発生した森林昆虫

お尾 崎 研 一¹⁾・原 ひで 穂²⁾

はじめに

北海道内における2001年の森林昆虫の発生状況をとりまとめたので報告する。2000年発生分までは北海道森林保護会議でとりまとめを行っていたが、2001年分からはこの会議が開催されなくなったため、北海道水産林務部森林整備課発行の北海道森林保護事業実績書、及び森林総合研究所北海道支所と北海道林業試験場が行なった調査、情報収集に基づいて報告する。発生情報をお寄せ頂いた関係各位にお礼申し上げますとともに、3年遅れの報告となったことをお詫び致します。

森林総合研究所の独立行政法人化に伴い、森林病虫獣害発生情報収集システムが2001年度から変更になった。新しいシステムでは、発生情報は調査項目が印刷されたハガキに記入して送付、もしくは都道府県の森林・林業試験研究機関からのインターネット入力により収集する。このシステムは森林総合研究所の業務として位置付けられ、ハガキの送付からデータの入力までを(勸)林業科学技術振興所に委託して行なう。従って、森林総合研究所北海道支所で情報を収集する従来のやり方は2000年度で終了となった。新しいシステムはインターネット上に公開され (<http://150.26.105.86/index.htm>, ユーザー名: AllUser, パスワード: alluser), 閲覧が可能な森林病虫獣害データベースとして運用される。

2001年の発生の特徴

カラマツの食葉性昆虫ではカラマツハラアカハバチ、ニホンカラマツヒラタハバチ、ミスジツマキリエダシヤク、カラマツイトヒキハマキ、マイマイガが前年より継続して発生した。それに加えて本年は、カラマツツツミノガ(写真-1, 2)が札幌市や夕張市、ニホンアカズヒラタハバチが苫小牧市、ツガカレハが足寄町で発生した。その結果、カラマツ食葉性昆虫の総発生面積は23,000

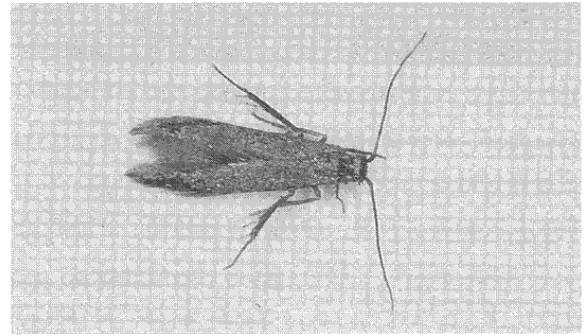


写真-1 カラマツツツミノガ成虫

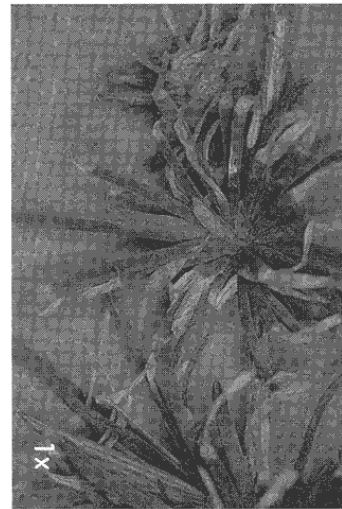


写真-2 カラマツツツミノガによるカラマツの食害

haに達した。この内訳はニホンカラマツヒラタハバチが12,300haで最も多く、次いでミスジツマキリエダシヤク(5,500ha)、カラマツハラアカハバチ(2,900ha)の順であった。道南地方におけるカラマツハラアカハバチの発生は減少傾向であるが、依然、森町では1,300haもの発生が見られた。道東地方で発生しているニホンカラマツヒラタハバチは、前年と比較すると清里町、標茶町、阿寒町からの報告がなくなったが、新たに網走市と斜里町で発生した。ただ、全体に被害程度は弱くなっているようである。ミスジツマキリエダシヤクは前年の発生面積が多かった美幌町、池田町の被害が大幅に減少し、それに代わって東藻琴村で3,600haもの発生がみられた。カラマツイトヒキ

表-1 2001年所管別オオアブラムシ類発生状況

所管	トドマツオオアブラムシ		エゾマツオオアブラムシ	
	被害区域面積 (ha)	防除面積 (ha)*	被害区域面積 (ha)	防除面積 (ha)*
北海道局	0.00	0.00	0.00	0.00
北見分局	0.00	0.00	0.00	0.00
旭川分局	0.00	0.00	0.00	0.00
帯広分局	0.00	0.00	6.00	6.00
函館分局	0.00	0.00	0.00	4.00
小計	0.00	0.00	6.00	10.00
道有林	132.00	127.00	694.00	624.00
民有林	3.28	0.00	17.36	0.00
小計	135.28	127.00	711.36	624.00
合計	135.28	127.00	717.36	634.00

*は要防除面積

ハマキは道北地方での発生が終息したものの、新たに標茶町のパイロットフォレスト及び美幌町で発生した。マイマイガは前年は積丹町での発生であったが、今年は津別町を中心に発生した。なお、被害報告はなかったものの、道北方面でもかなり発生しているようで、中川町、遠別町、羽幌町な

どでは市街地に成虫が大量飛来し問題になった。

カラマツなど落葉樹の場合、食葉性害虫の被害で直接枯死することはほとんどなく数週間で葉が回復する。とはいえ、近年は森林被害に対する一般住民や報道機関の関心が高く、詳しい被害情報の提供がしばしば必要になっている。カラマツツミノガ、ミスジツマキリエダシャク、ニホンカラマツヒラタハバチの被害地域では、従来の被害調査に加えて、定期的な写真撮影による回復過程のモニタリングが関係支庁により実施された。

カラマツヤツバキクイムシは、標茶町や美幌町ではニホンカラマツヒラタハバチやミスジツマキリエダシャクの発生林分で二次的に被害が発生した。滝川市ではアオサギが営巣している林で被害

表-2 2001年に発生した森林昆虫（オオアブラムシ類は除く）

昆虫名	加害樹種	発生地(市町村)	発生区域面積(ha)	備考	
カラマツハラアカハバチ	カラマツ	恵山町	0.28		
		大野町	51.64		
		上磯町	102.00		
		砂原町	216.00		
		鹿部町	73.96		
		般法華村	4.84		
		七飯町	885.80		
		函館市	105.76		
		森町	1,347.00		
		八雲町	80.04		
ニホンカラマツヒラタハバチ	カラマツ	小清水町	2,143.00	国有林 (1,540.00ha) 民有林 (603.00ha)	
		美幌町	4,013.40	国有林 (920.00ha) 民有林 (3,093.40ha)	
		東藻琴村	4,019.00	国有林 (460.00ha) 民有林 (3,559.00ha)	
		津別町	1,425.00	国有林 (1,146.00ha) 民有林 (279.00ha)	
		網走市	103.00	国有林 (0 ha) 民有林 (103.00ha)	
		斜里町	386.00	国有林 (0 ha) 民有林 (386.00ha)	
		弟子屈町	209.32	国有林 (0 ha) 民有林 (209.32ha)	
ミスジツマキリエダシャク	カラマツ	網走市	103.00		
		小清水町	603.00		
		美幌町	820.68		
		女満別町	436.00		
		東藻琴村	3,561.36		
カラマツイトヒキハマキ	カラマツ	標茶町	422.00		
		美幌町	1,482.96		
モミコスジオビハマキ	トドマツ	深川市	400.00		
マイマイガ	カラマツ, グイマツ	津別町	12.00		
		カラマツ F1, グイマツ	美幌町	4.00	
		カラマツ	和寒町	2.88	
ニホンアカズヒラタハバチ	カラマツ	苫小牧市	50.00		
トドマツノキバチ	カラマツ	清水町	3.88		
ツマクロテンヒメハマキ	アカエゾマツ	音威子府村	7.72		
		中川町	73.56		
		美深町	17.24		
カラマツツツミノガ	カラマツ	北広島市	1.92		
		札幌市	467.20		
		夕張市	38.00		
クスサン	マカバ	赤井川村	219.00		
ツガカレハ	アカエゾマツ	美幌町	1.56		
		美幌町	1.68		
	トドマツ	女満別町	6.32		
		足寄町	3.68		
ナミドクガ	カラマツ	天塩町	4.80		
ナミドクガ	カシワ, グイマツほか	天塩町	4.80		
ミヤマキリガ, クロハナギンガ, ミヤマヒラタハムシ	シナノキ, ケヤマハンノキ	幌加内町	4,690.00	ミヤマキリガ, クロハナギンガはシナノキに, ミヤマヒラタハムシはケヤマハンノキに発生	
イタヤハムシ	イタヤカエデ	名寄市	10.00		
ナラエダムレタマバチ	ミズナラ	中札内村	1.12		
ミヤマフキバツ	ミズナラ	美深町	3.52		
カラマツヤツバキクイムシ	カラマツ	滝川市	7.00		
		美幌町	34.88		
		標茶町	54.80		
トドマツノキクイムシ	トドマツ	当別町	0.12		

が発生した。被害木の伐倒搬出は営巣中のアオサギに対する影響が心配されたことから、営巣地から離れたところにカラマツ丸太を大量に置いて、そこにカラマツヤツバキクイムシを誘引して駆除した（山谷・福士，2002）。

カラマツの害虫以外では、新たにトドマツノキバチ、ツマクロテンヒメハマキ、クスサン、トドマツノキクイムシ等の発生が報告された。また、幌加内町の天然林4,700haにおいてミヤマキリガ、クロハナギンガがシナノキに発生し、ミヤマヒラタハムシがケヤマハンノキに発生した。その一方で前年、発生があったシナノキハムグリハバチ、ハンノキハムシ、ヤナギルリハムシ、オオスジコガネは報告されなかった。

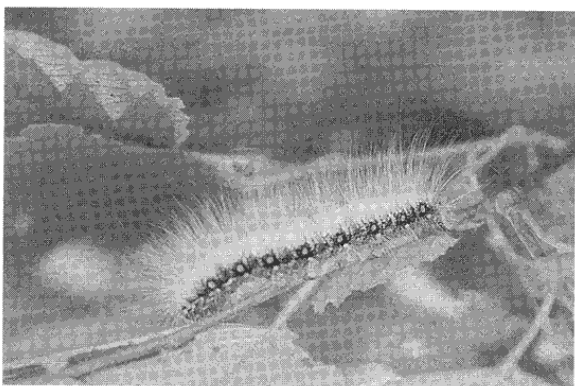


写真-3 クスサンの老齢幼虫

クスサン（写真-3）によるウダイカンバの食害は1991～1992年厚田村で初めて確認された（福山，1992；福山ほか，1992，1993）。今回，10年ぶりに被害が発生した。北海道立林業試験場構内でもウダイカンバ（約50本）に1999年から継続発生しており，2001年には枯死木が発生した。被害が長期化した場合は注意が必要である。

2001年に始めて発生した害虫

ツマクロテンヒメハマキはトドマツやアカエゾマツなどトウヒ属の新梢の髓に潜入し，新梢を枯らす昆虫で，以前から害虫としての重要性が指摘されていた（鈴木・駒井，1984）が，造林地での被害記録は今回が初めてと思われる。幹になる新梢の食害が多く，樹形が不整になる可能性がある（菅原，2002）。

ミヤマキリガとクロハナギンガの多発が今回初めて報告された。いずれもシナノキを6月頃に加害する（杉，1987）。ミヤマヒラタハムシの多発

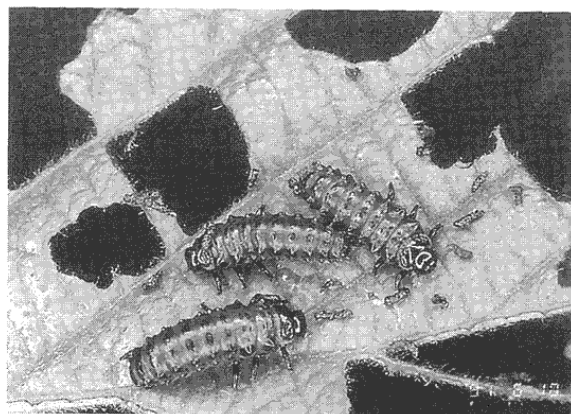


写真-4 ミヤマヒラタハムシの老齢幼虫（体長10mm）

は本州ではダケカンバやハンノキなどで記録があるが（奥田，1994），北海道では初めてと思われる。6月上・中旬にケヤマハンノキの葉を食害する。加害時期が1ヶ月ほど早く，幼虫が葉に穴を空けて食べるなどの点でハンノキハムシと区別できる（写真-4）。

- 1) 森林総合研究所北海道支所
- 2) 北海道立林業試験場

引用文献

- 福山研二 1992 ウダイカンバにクスサンが発生 森林保護232：41
- 福山研二・前藤薫・東浦康友・原秀穂 1992 平成3年度に北海道で発生した森林昆虫 北方林業44：271-274
- 福山研二・前藤薫・東浦康友・原秀穂 1993 平成3年度に北海道で発生した森林昆虫 北方林業45：265-272
- 奥田素男 1994 ミヤマヒラタハムシ 小林富士雄・竹谷昭彦編集，森林昆虫：360-361 養賢堂，東京
- 菅原豊 2002 上川北部に発生したアカエゾマツの害虫「ツマクロテンヒメハマキ」 森林保護285：7-8
- 杉繁郎，編集 1987 日本産蛾類生態図鑑 453pp 講談社，東京
- 鈴木重孝・駒井古実 1984 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類 北海道林業試験場研究報告22：85-129
- 山谷義徳・福士利彦 2002 カラマツ採種園で発生したカラマツヤツバキクイムシ駆除の実例 平成13年度森づくり活動発表報告集：54-55 北海道林業改良普及協会，札幌